

委員からの意見書

◎ 白石 真澄 委員 [関西大学政策創造学部教授]

○資料1について

- ・ 「2 少子化対策の抜本強化」のネーミングは再考したほうが良いと思います。国の政策の中でも次世代育成支援という呼び方によって変わってきており、個人のライフスタイルに政策関与を強めないという意味合いでも、家族・子育て支援といったネーミングのほうが良いかもしれません。
- ・ 3ページにある二地域居住や世代に応じた移住（今後は年金不足から65歳以降の就労可能性が出てくる）を可能にするには、フリーな立場で働くなど、働き方のギアチェンジが必須です。オール関西企業が柔軟な働き方の実現に取り組めばひとつの魅力になりますので、ぜひ、こうした働き方を可能にするようなソフトな政策も加えていただければと思います。
- ・ 7ページに「ライフステージごとに幸せな家庭生活を描ける・・・」とあるが、「幸せ」の価値観は非常に多様化しており「家庭生活」も押し付け感がある。個人の経済的自立や生き方の多様な選択肢を用意することで、結果的に結婚や子育てに向かうようなことが望ましいのではないのでしょうか。
- ・ 13ページの「徹底したインフラ整備」の部分ですが、財政的な裏づけがないものをあれこれ書きすぎるより、優先順位、スケジュールを明確にし、「やれる事」を書くべきだと思います。
- ・ 研究課題については主だったところが集約されてきていると思います。ただ、全体を通して、「誰が」または「(広域、府県、市区町村、市民団体、企業など)誰が主体的になって」という主語が明確ではないので、今後、そこも詰めていくべきでしょう。